

# 令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（特養）

施設名 京都市椋野特別養護老人ホーム

## 1 施設の管理運営

〔利用定員〕 長期利用：50名 短期利用：4名 〔介護保険給付対象サービス〕 施設ケアマネジメント、日常生活上の相談援助、介護（食事・入浴・排泄・その他）サービス、 栄養ケアマネジメント、健康管理及び療養上の指導 〔介護保険給付対象外サービス〕 食事の提供、各種行事・レクリエーション、理・美容サービス
---

## 2 事業実施内容

（1）指定管理業務（本来業務：特別養護老人ホーム） ・特養条例第2条に規定する事業に係る業務
（2）指定管理業務（企画提案業務：指定管理者が提案し、施設内で実施している業務。例：配食サービス） 特になし
自主事業の実施状況は、以下の通り。 特になし

## 3 サービス提供状況

施設長：1名 生活相談員：1名 介護支援専門員：常勤兼務 4名 介護職員：常勤専従 10名 常勤兼務 4名 非常勤専従 17名 看護職員：常勤専従 2名 機能訓練指導員：非常勤専従 1名 管理栄養士：常勤専従 1名 医師：非常勤専従 1名
再委託の実施状況（協定書に明記のない再委託業務）は、以下の通り。（例：給食調理業務） 特になし

## 4 市内中小企業への発注に対する考え方

・同条件であれば、市内中小企業への発注を優先する。
---------------------------

## 5 施設の利用状況（本来業務に係る施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

(1) 特別養護老人ホーム（長期入所）利用者のべ人数（実績値）

①令和5年度実績値  人

②令和6年度目標値  人

(2) ショートステイ（併設型及び空床利用型）利用者のべ人数（実績値）

①令和5年度実績値  人

②令和6年度目標値  人

(3) 収支実績

ア 本来業務（特別養護老人ホーム）

介護保険収入	172,749,645
利用料収入	43,533,744
委託料収入	57,750
補助金収入	5,737,122
寄付金収入	0
雑収入	0
その他	0
収入計	222,078,261

令和5年度収入状況及び支出の状況（単位：円）

人件費	133,890,459
事業費	36,161,562
委託費	13,094,518
小額修繕費	1,393,076
その他	15,615,360
支出計	200,154,975

## 6 施設の利用者満足度の把握

### (1) 利用者満足度の把握状況

令和5年度 利用者アンケート実施〔実施期間〕 令和5年8月21日～9月4日  
〔方法〕 食事、環境、職員態度、余暇・行事、その他について調査「はい・いいえ」の2択とその理由を記載。又、利用者に応じて聞き取り調査を実施。  
〔設問数〕13問 〔回答数〕43名/50名

### (2) 利用者満足度把握の結果

食事内容、環境、余暇等要望事項あり

### (3) 意見等への主な対応状況

アンケート結果を踏まえ、実現可能なものについては改善を図った。

## 7 その他特記事項

### (1)

令和5年度家族アンケートの実施  
〔実施期間〕令和5年8月16日～31日  
〔回答数〕33名（回答率：69.3%）

### (2)

アンケート内容について  
サービス内容、職員の対応、サービスの質、施設サービス計画書について、面会方法、広報誌、その他

## 8 評価（指定管理者自己評価）

・令和5年度を通じ新型コロナウイルス感染による事業所運営縮小等の影響は殆ど見られず、1年を通じて通常運営を継続することが出来、稼働率平均（長期・短期）は昨年比+5.6ポイントの97.1%。人件費については、介護ロボ（眠りスキャン）やインカムの効果的活用、職員配置の見直し等、業務効率化の推進により、時間外業務時間の削減に取り組むことで、昨年比275万円の削減が行えた。一方、事業費・事務費については、物価上昇に伴い合計で82万円増加した。収支全体としては増収増益となり、サービス活動収益額は昨年比+2036万円、サービス活動増減差額は2114万円の黒字となった。

・施設整備については、補助金を活用したプライバシー保護のための個室化事業を実施する事で、利用者のプライバシーを尊重した取り組みを行う事が出来た。人材育成については、法人内研修（座学やOJT）だけでなく、Webを最大限活用することにより、外部研修にも積極的に参加。また、障害を理由とする差別の解消に向けた職員研修により理解を深める事ができた。これらの取り組みにより、総合的なケアの質の向上、入所者・ご家族の満足度向上にもつながっている。今後もより高いレベルで地域の要請に応えられるよう、努めていく。